

2015/1/18

柏の景気情報（平成27年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成27年12月分）

○ 調査期間 : 平成27年12月22日 ~ 平成28年1月13日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	80	51.3%
建設	44	24	54.5%
製造	33	17	51.5%
卸・小売	43	25	58.1%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

--

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成27年12月の調査結果のポイント】

◀業況DIは横ばい推移。先行きはやや改善の見通し▶

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.7(前月水準▲30.8)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲12.5(同▲21.7)、卸小売業▲44.0(同▲52.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.1(同▲27.7)、サービス業▲14.2(同▲13.3)である。

【建設業】からは、「補正予算の概要が伝えられ、補助金でどれだけ受注に好影響が現れるかが楽しみです」(一般土木建築工事業)、「受注の先行きが全く見えない。加えて全体的に仕事量が少ないにも関わらず、仕入に関する納品までの日数が縮まらない。地域的にはやり尽くした感がある。これからの方向を必死で模索中である」(石工れんがタイルブロック工事業)、「12月に畳工事をするという家庭が年々減っているせいか、10月・11月と比べるとやや減少」(内装工事業)、「全体的には不変ですが、工事種別によりバラつきが出ている。例)クロス工事→増加。カーテン工事→減少など」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「マイナンバー後の社会保険事務の負担が増えるので、頭がいたい。パートを多く抱えている企業はどうするのか知りたい」(印刷業)、「鋼板材料メーカーの在庫調整が完了したため、小売価格が仕入価格下落に対応可能になってきた。値下げに期待。政府の税制補助利用による年度末納期の駆け込み発注が増加。納期確保に苦慮」(その他の機械・同部品製造業)、「売上高が年々減少している。人員の減少もあるが、仕事の内容を見直し、改善した結果、採算ベースはトントンである」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「柏駅周辺からまた書店が1軒無くなります。ネット販売が主流になる中、このままでは地域インフラとしての書店が無くなってしまおうという危機感を抱いている」(書籍・文房具小売業)、「買い控え分を年末に期待したが、客数は伸びたものの単価が振るわず売上ダウン」(その他の各種商品小売業)、「アメリカの利上げによりこれからも円安に振れていく。そうなれば輸入物の仕入れが上がる。今後も仕入原価が高くなる可能性があると感じる。沼南のSCの出店により、以前、TXが完成して、周囲のSCが人を募集していた時もパート職員を集めづらくなったが、それ以上になると感じている」(各種食料品小売業)、「スイーツプレミアム商品券がクリスマスと重なり好調でした」(菓子・パン小売業)、「青果物は、例年の冬期気温になく、比較的温暖な日が続く、葉物関係野菜は、生育が早いいため、入荷増に加えて、消費者の食の変化もあり、安値取り引きとなっています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「材料の仕入原価上昇が激しくなっています」(酒場・ビヤホール)、「新店舗が出店したので、採算好転を見込む。パート・アルバイトの時給値上げを進行中」(食堂・レストラン)、「個人需要では、国内旅行は冬場も相変わらず北陸方面と温暖な沖縄が人気。海外旅行は、フランスのテロの影響で、キャンセルまたは西欧から中欧、アメリカ、アジアコースへの変更が多い。法人需要では、旅行需要のみならず、従業員の福利厚生や社員研修の相談案件が増えている。また、次年度上期の旅行案件が増えている。その他、インバウンド案件も増えており、地域や時期により、バス手配が困難」(旅行業)、「年度末に向けて受注が増えている。一方、新年度の見込みは半分程度」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「人手不足が続いている。省エネ関連(照明のLED化)が進んでいる」(電気工事業)、「高齢化、低単価に加え、職人不足と、今後の施工方法さえ変更せざるを得ない状況となっている」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「衣料品は婦人・紳士とも気温の上昇もあって、冬物商材のコートなど重衣料の苦戦継続」(百貨店)、「暖冬傾向が強く、重衣料が超低調。特に、コートやセーターなどの厚手品は全て不調。数年前までは、12月の売上は頭一つ良かったのだが、ここ数年は平月と全く変わらなくなってしまった」(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入単価上昇

各業種より、「全般的に大手の値上げが一服したためか、中小の業者が1月、4月と値上げ申請あり(衣料、文具関係)」(その他の飲食物品小売業)、「仕入価額は、相変わらず上昇しています。建築費、材料費ともに値上がりしています」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲19.7	▲25.0	±0.0	▲42.8	△14.2
8月	▲23.1	▲35.0	▲11.1	▲32.1	▲6.2
9月	▲20.2	▲21.7	▲5.5	▲35.7	▲6.6
10月	▲26.2	▲13.6	▲33.3	▲44.0	▲6.6
11月	▲30.8	▲21.7	▲27.7	▲52.0	▲13.3
12月	▲28.7	▲12.5	▲41.1	▲44.0	▲14.2
見通し	▲15.0	▲8.3	▲11.7	▲28.0	▲7.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.7(前月水準▲30.8)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

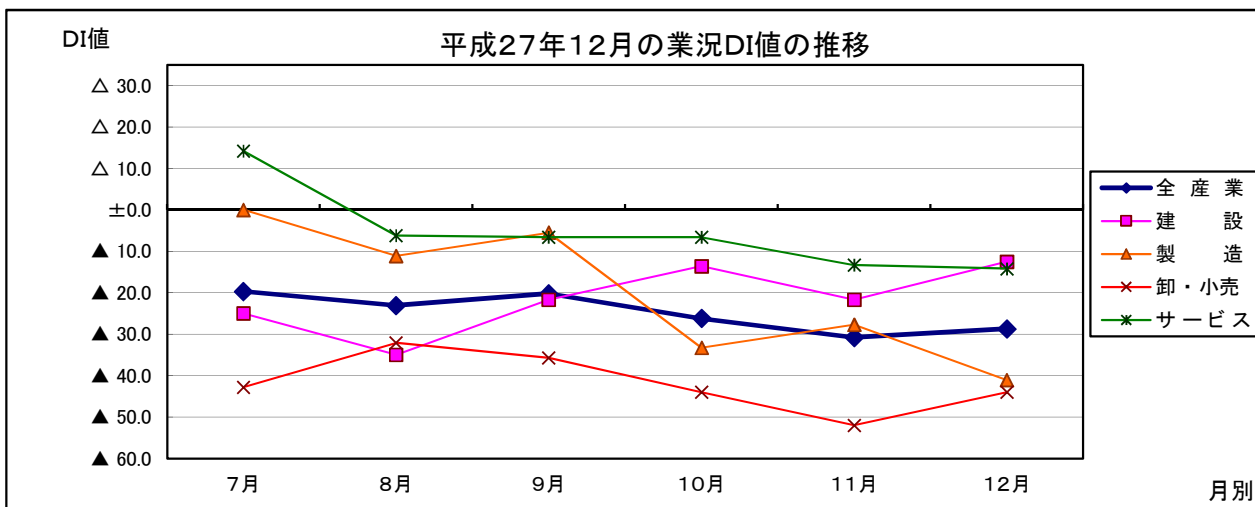
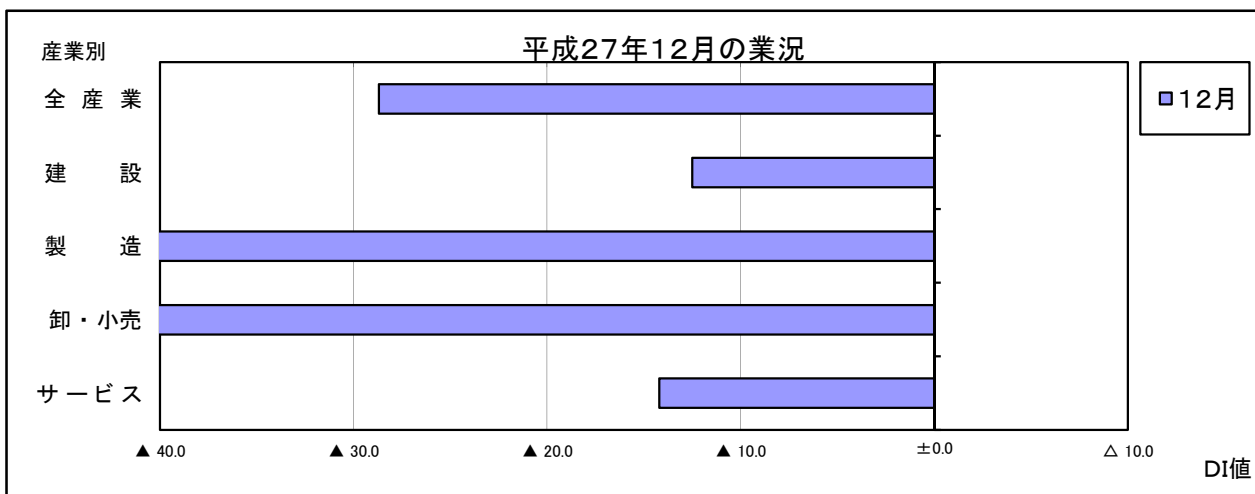
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲12.5(同▲21.7)、卸小売業▲44.0(同▲52.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.1(同▲27.7)、サービス業▲14.2(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.0(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が7.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲33.3)、卸小売業▲28.0(同▲40.0)、建設業▲8.3(同▲8.6)であり、特に、製造業では、マイナス幅が21.6ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲7.1(±0.0)である。

平成27年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲19.7	▲23.1	▲20.2	▲26.2	▲30.8	▲28.7	▲15.0(▲22.2)
建設	▲25.0	▲35.0	▲21.7	▲13.6	▲21.7	▲12.5	▲8.3(▲8.6)
製造	±0.0	▲11.1	▲5.5	▲33.3	▲27.7	▲41.1	▲11.7(▲33.3)
卸・小売	▲42.8	▲32.1	▲35.7	▲44.0	▲52.0	▲44.0	▲28.0(▲40.0)
サービス	△14.2	▲6.2	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲14.2	▲7.1(±0.0)



【平成27年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.7(同▲27.1)であり、マイナス幅が8.4ポイント縮小した。

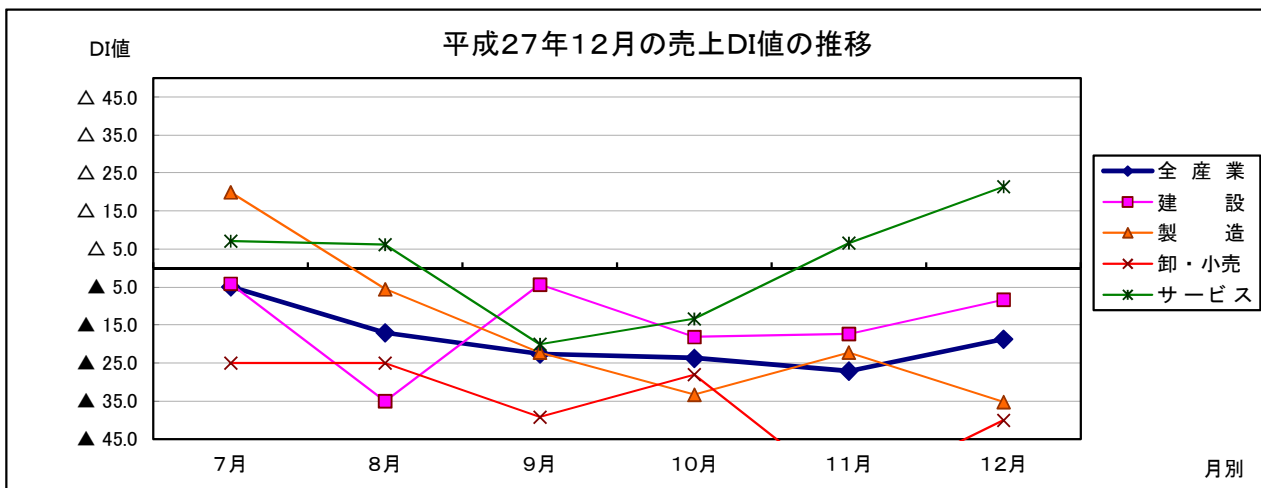
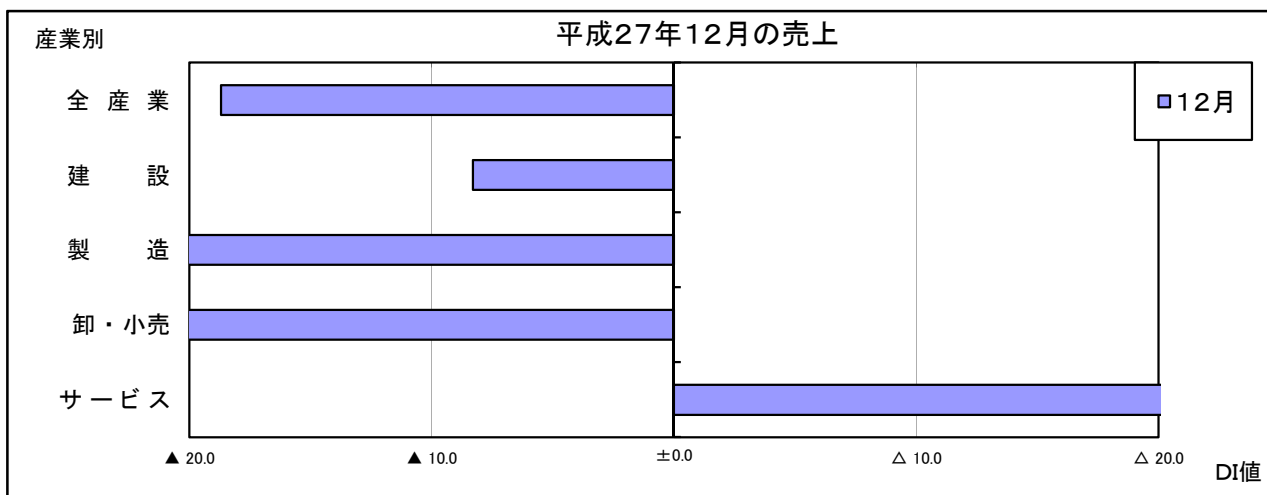
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△21.4(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.0(同▲60.0)、建設業▲8.3(同▲17.3)であり、特に卸小売業では、20.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲35.2(同▲22.2)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.7(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が6.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△35.7(同△6.6)であり、29.1ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲27.7)、卸小売業▲28.0(同▲32.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△4.1(同△17.3)である。

平成27年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲4.9	▲17.0	▲22.6	▲23.7	▲27.1	▲18.7	▲3.7(▲9.8)
建設	▲4.1	▲35.0	▲4.3	▲18.1	▲17.3	▲8.3	△4.1(△17.3)
製造	△20.0	▲5.5	▲22.2	▲33.3	▲22.2	▲35.2	▲11.7(▲27.7)
卸・小売	▲25.0	▲25.0	▲39.2	▲28.0	▲60.0	▲40.0	▲28.0(▲32.0)
サービス	△7.1	△6.2	▲20.0	▲13.3	△6.6	△21.4	△35.7(△6.6)



【平成27年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.5(前月水準▲38.2)となり、マイナス幅が5.7ポイント縮小した。

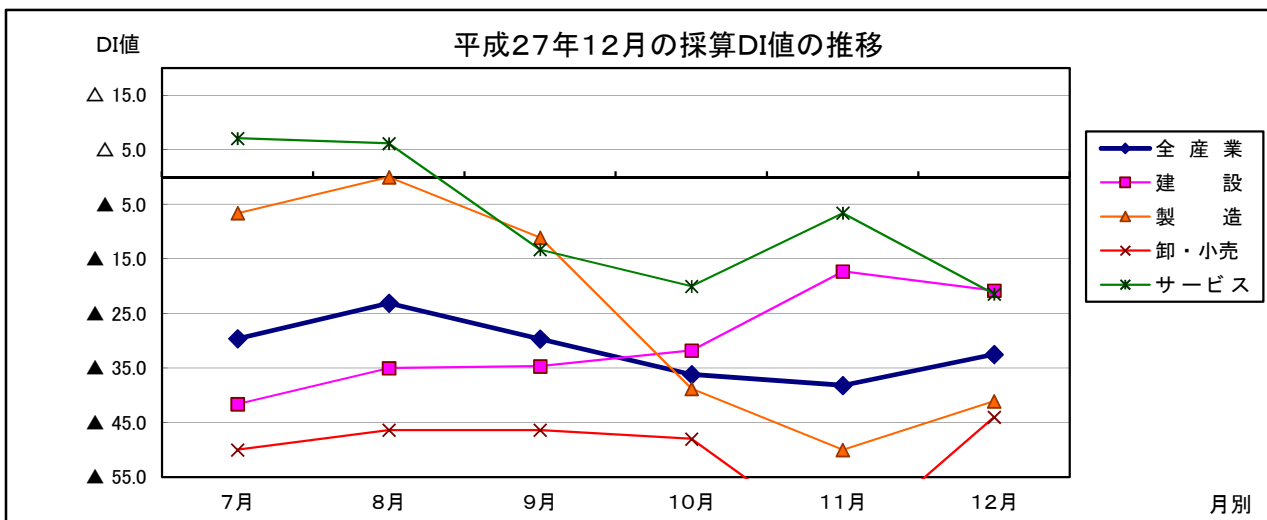
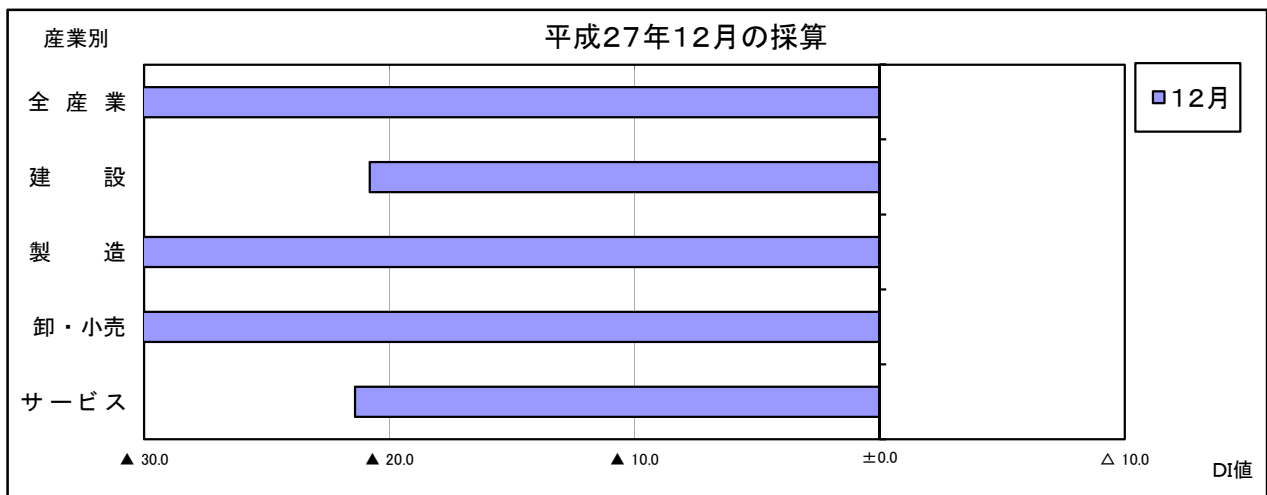
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲68.0)、製造業▲41.1(同▲50.0)であり、特に卸小売業では、24.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲6.6)、建設業▲20.8(同▲17.3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.2(前月水準▲22.2)であり、マイナス幅が6.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲33.3)、卸小売業▲40.0(同▲44.0)であり、特に、製造業では、27.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。変わらない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲8.3(同▲4.3)である。

平成27年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲29.6	▲23.1	▲29.7	▲36.2	▲38.2	▲32.5	▲16.2(▲22.2)
建設	▲41.6	▲35.0	▲34.7	▲31.8	▲17.3	▲20.8	▲8.3(▲4.3)
製造	▲6.6	±0.0	▲11.1	▲38.8	▲50.0	▲41.1	▲5.8(▲33.3)
卸・小売	▲50.0	▲46.4	▲46.4	▲48.0	▲68.0	▲44.0	▲40.0(▲44.0)
サービス	△7.1	△6.2	▲13.3	▲20.0	▲6.6	▲21.4	±0.0(±0.0)



【平成27年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26. 2(前月水準▲34. 5)となり、マイナス幅が9. 3ポイント縮小した。

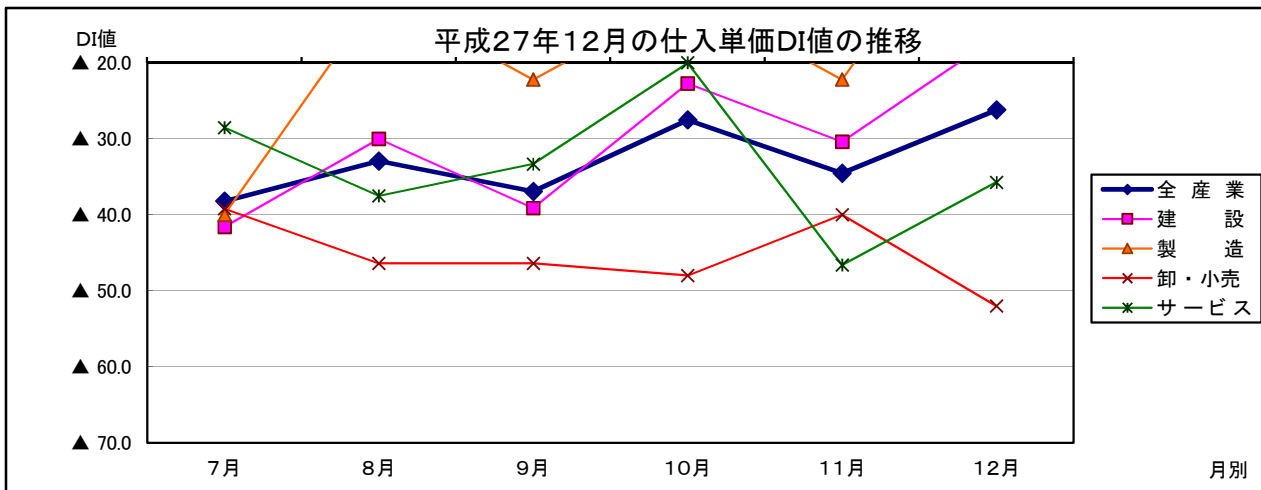
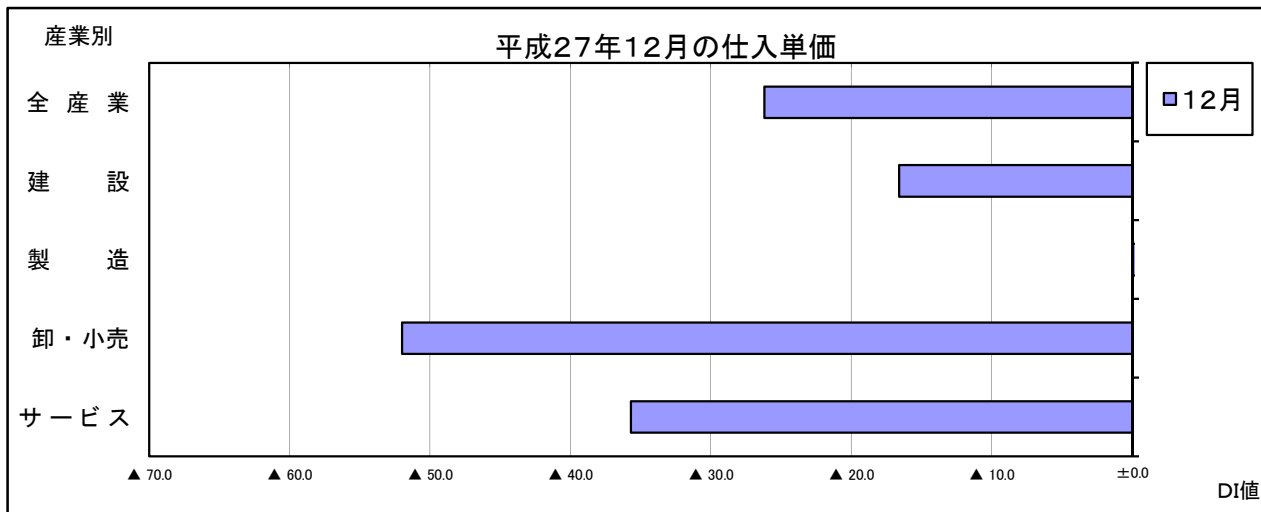
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5. 8(同▲22. 2)であり、28. 0ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲16. 6(同▲30. 4)、サービス業▲35. 7(同▲46. 6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲52. 0(同▲40. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26. 2(前月水準▲23. 4)となり、マイナス幅が2. 8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲12. 5(同▲17. 3)である。変わらない見通しの業種は、卸小売業▲40. 0(同▲40. 0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲17. 6(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲35. 7(同▲33. 3)である。

平成27年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲38.2	▲32.9	▲36.9	▲27.5	▲34.5	▲26.2	▲26.2(▲23.4)
建設	▲41.6	▲30.0	▲39.1	▲22.7	▲30.4	▲16.6	▲12.5(▲17.3)
製造	▲40.0	▲11.1	▲22.2	▲11.1	▲22.2	△5.8	▲17.6(±0.0)
卸・小売	▲39.2	▲46.4	▲46.4	▲48.0	▲40.0	▲52.0	▲40.0(▲40.0)
サービス	▲28.5	▲37.5	▲33.3	▲20.0	▲46.6	▲35.7	▲35.7(▲33.3)



【平成27年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△8.7(前月水準△11.1)となり、プラス幅が2.4ポイント縮小した。

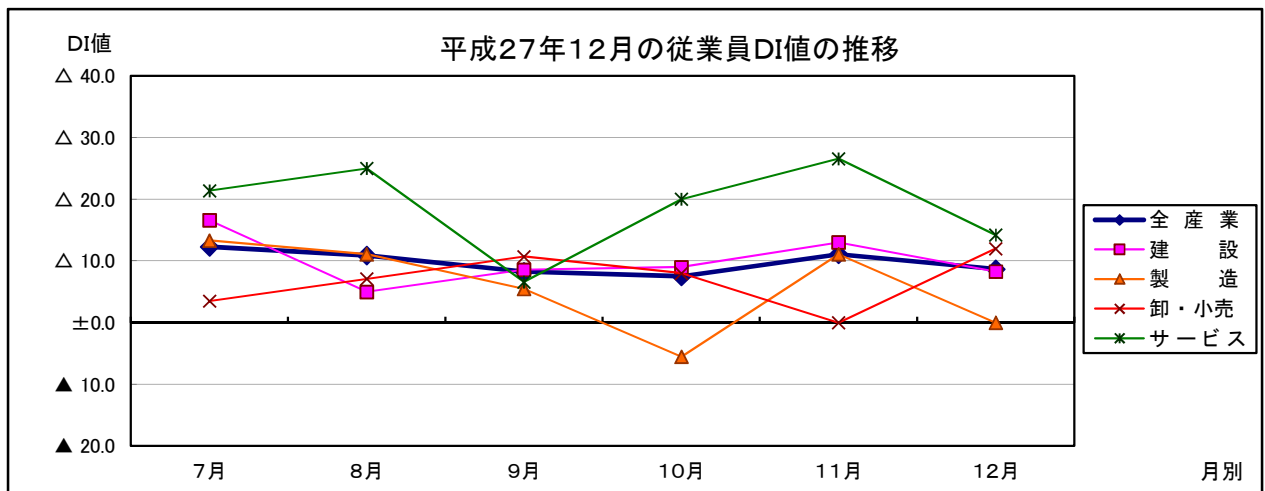
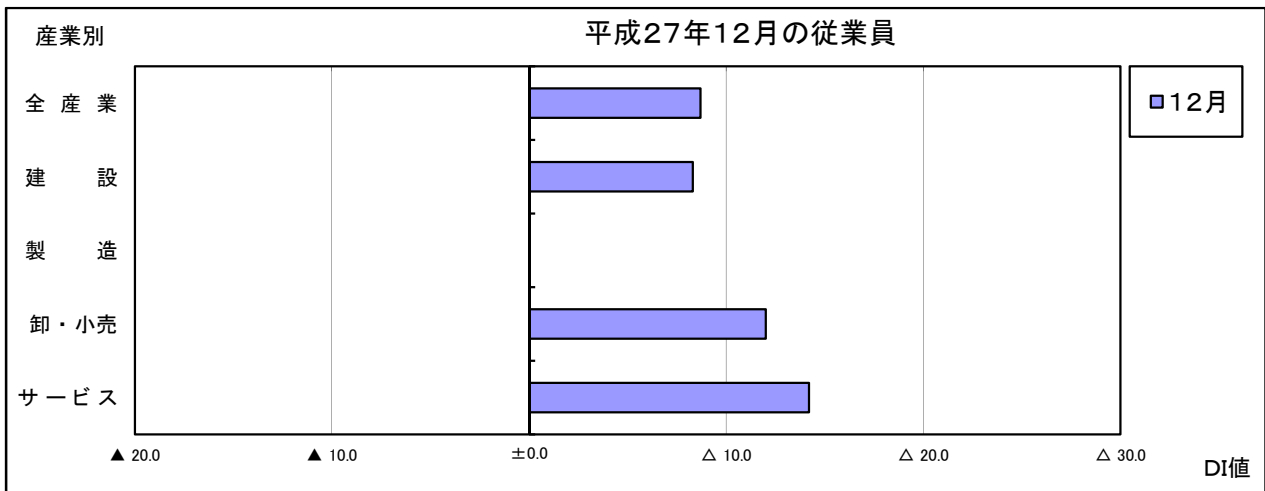
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△12.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△14.2(同△26.6)、製造業±0.0(△11.1)、建設業△8.3(同△13.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△13.7(前月水準△17.2)であり、プラス幅が3.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△20.0(同△12.0)、製造業△5.8(同△5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△8.3(同△21.7)、サービス業△21.4(同△33.3)である。

平成27年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	△12.3	△10.9	△8.3	△7.5	△11.1	△8.7	△13.7(△17.2)
建設	△16.6	△5.0	△8.6	△9.0	△13.0	△8.3	△8.3(△21.7)
製造	△13.3	△11.1	△5.5	▲5.5	△11.1	±0.0	△5.8(△5.5)
卸・小売	△3.5	△7.1	△10.7	△8.0	±0.0	△12.0	△20.0(△12.0)
サービス	△21.4	△25.0	△6.6	△20.0	△26.6	△14.2	△21.4(△33.3)



【平成27年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.2(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大した。

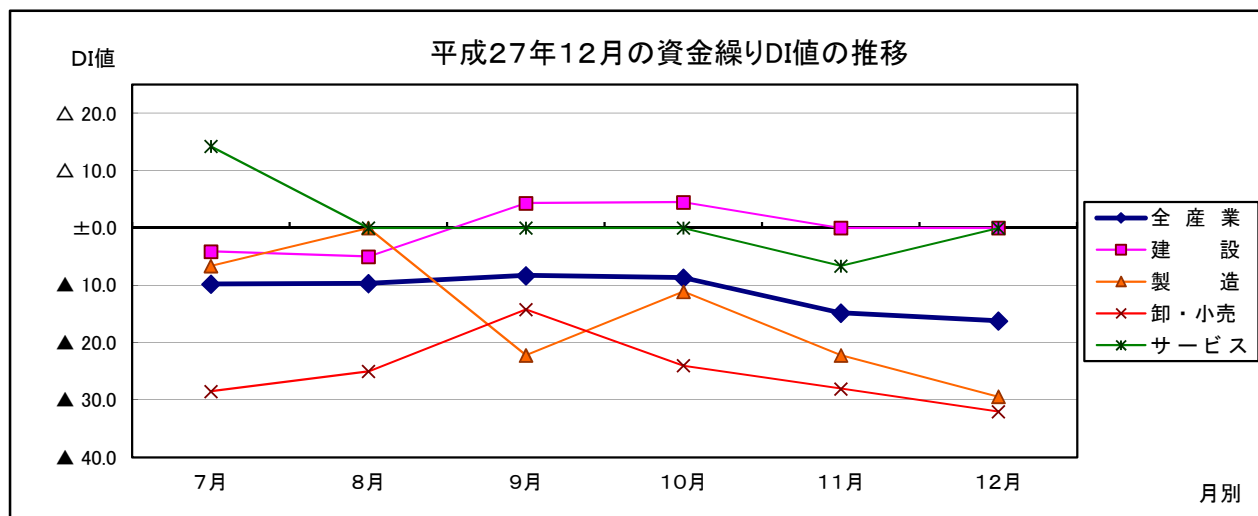
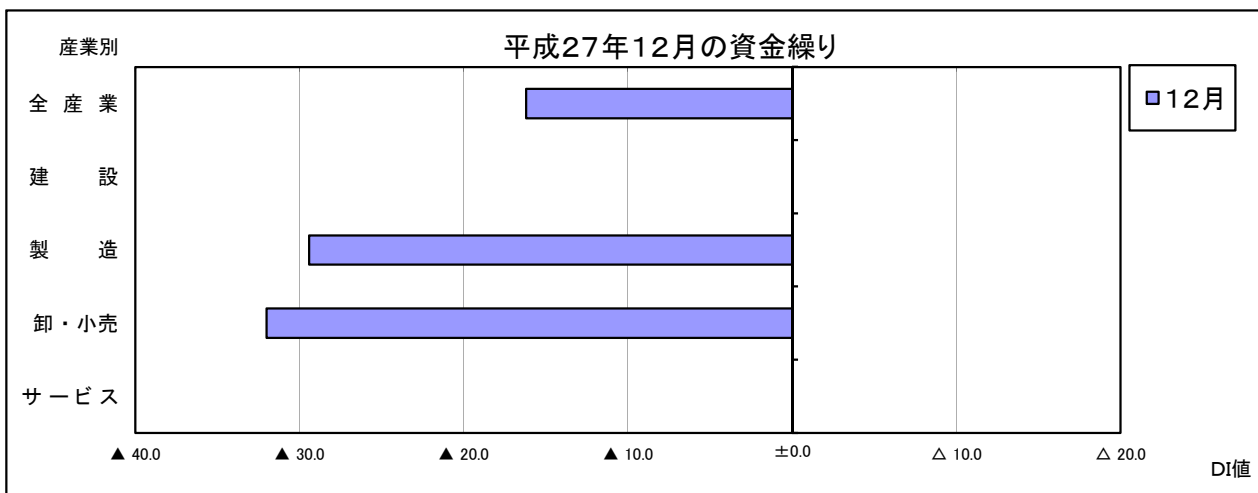
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.6)である。変わらない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.4(同▲22.2)、卸小売業▲32.0(同▲28.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.5(前月水準▲8.6)となり、マイナス幅が3.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△7.1(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△8.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.0(同▲20.0)、製造業▲23.5(同▲22.2)である。

平成27年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲9.8	▲9.7	▲8.3	▲8.7	▲14.8	▲16.2	▲12.5(▲8.6)
建設	▲4.1	▲5.0	△4.3	△4.5	±0.0	±0.0	±0.0(△8.6)
製造	▲6.6	±0.0	▲22.2	▲11.1	▲22.2	▲29.4	▲23.5(▲22.2)
卸・小売	▲28.5	▲25.0	▲14.2	▲24.0	▲28.0	▲32.0	▲28.0(▲20.0)
サービス	△14.2	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.6	±0.0	△7.1(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.7	▲ 3.7	▲ 32.5	▲ 16.2	▲ 26.2	▲ 26.2	△ 8.7	△ 13.7
建設	▲ 8.3	△ 4.1	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 16.6	▲ 12.5	△ 8.3	△ 8.3
製造	▲ 35.2	▲ 11.7	▲ 41.1	▲ 5.8	△ 5.8	▲ 17.6	±0.0	△ 5.8
卸・小売	▲ 40.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 40.0	▲ 52.0	▲ 40.0	△ 12.0	△ 20.0
サービス	△ 21.4	△ 35.7	▲ 21.4	±0.0	▲ 35.7	▲ 35.7	△ 14.2	△ 21.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.7	▲ 15.0	▲ 16.2	▲ 12.5
建設	▲ 12.5	▲ 8.3	±0.0	±0.0
製造	▲ 41.1	▲ 11.7	▲ 29.4	▲ 23.5
卸・小売	▲ 44.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 28.0
サービス	▲ 14.2	▲ 7.1	±0.0	△ 7.1

【平成27年月12業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	補正予算の概要が伝えられ、補助金でどれだけ受注に好影響が現れるかが楽しみです。	補正予算	一般土木建築工事業
	受注の先行きが全く見えない。加えて全体的に仕事量が少ないにも関わらず、仕入に関する納品までの日数が縮まらない。地域的にはやり尽くした感がある。これからの方向を必死で模索中である。	先行き不透明 仕事量減少 納品日数	石工れんがタイルブロック工事業
	人手不足が続いている。省エネ関連(照明のLED化)が進んでいる。	人手不足 省エネ LED化	電気工事業
	仕入単価は上げ止まりとなり落ち着いたものの、施工単価が一向に上がらないため、賃上げを出来る状況ではない。高齢化、低単価に加え、職人不足と、今後の施工方法さえ変更せざるを得ない状況となっている。天候により作業出来ない場合もあるため、休日確保も大切だが、安定した賃金体制も重要な課題である。	仕入単価上昇(上げ止まり) 低単価(施工単価下げ止まり) 人手不足(職人不足) 安定した賃金体制	その他の職別工事業
	12月に畳工事をするという家庭が年々減っているせいか、10月・11月と比べるとやや減少。	受注減	内装工事業
	全体的には不変ですが、職種によりバラつきが出ている。例)クロス工事→増加。カーテン工事→減少など。	工事別にまちまちな状況	その他の職別工事業
	住宅会社は、年始においては新築、リフォームともに減少するもの。特にリフォームに関しては、年始早々に始めるケースは少なく、例年1月は売上高、採算ともに他業種とは比較になりません。	受注減	一般土木建築工事業
製造業	マイナンバー後の社会保険事務の負担が増えるので、頭がいたい。パートを多く抱えている企業はどうするのか知りたい。	マイナンバー	印刷業
	鋼板材料メーカーの在庫調整が完了したため、小売価格が仕入価格下落に対応可能になってきた。値下げに期待。政府の税制補助利用による年度末納期の駆け込み発注が増加。納期確保に苦慮。	仕入価格下落(期待) 駆け込み需要 納期確保	その他の機械・同部品製造業
	売上高が年々減少している。人員の減少もあるが、仕事の内容を見直し、改善した結果、採算ベースはトントンである。	売上減 人員減 経費削減	印刷業
	衣料品は婦人・紳士とも気温の上昇もあって、冬物商材のコートなど重衣料の苦戦継続。宝飾・時計の高級雑貨は、時計が輸入時計を中心に好調に推移。食品は、早期終了のお歳暮が前年を上回り、クリスマスケーキやおせちも好調に推移し、食品ゾーンの前年伸長に大きく寄与した。	天候不順 冬物衣料不調 高級雑貨好調 お歳暮・クリスマスケーキ好調	百貨店
	暖冬傾向が強く、重衣料が超低調。特に、コートやセーターなどの厚手品は全て不調。数年前までは、12月の売上は頭一つ良かったのだが、ここ数年は平月と全く変わらなくなってしまった。	天候不順 冬物衣料不調	婦人・子供服小売業
	柏駅周辺からまた書店が1軒無くなります。ネット販売が主流になる中、このままでは地域インフラとしての書店が無くなってしまおうという危機感を抱いている。	書店の減少	書籍・文房具小売業

【平成27年月12業種別業界内トピックス】

卸小売	気温が高く、冬物衣料が売上不振。特に、婦人関連の実用衣料。また、クリスマスケーキは前年並みに推移も、おせちの予約は前年を割っている。野菜は潤沢に出回っており、果物も含め売上は好調。	天候不順 冬物衣料不調	その他の各種商品小売業
	買い控え分を年末に期待したが、客数は伸びたものの単価が振るわず売上ダウン。	客数増 単価減(売上ダウン)	その他の各種商品小売業
	アメリカの利上げによりこれからも円安に振れていく。そうなれば輸入物の仕入れが上がる。今後も仕入原価が高くなる可能性があると感じる。沼南のSCの出店により、以前、TXが完成して、周囲のSCが人を募集していた時もパート職員を集めづらくなったが、それ以上になると感じている。全体のコストアップの恐れがあると懸念している。	アメリカの利上げ SCの人員募集の影響 コストアップの懸念	各種食料品小売業
	スイーツプレミアム商品券がクリスマスと重なり好調でした。	スイーツ・パンプレミアム商品券	菓子・パン小売業
	青果物は、例年の冬期気温になく、比較的温暖な日が続き、葉物関係野菜は、生育が早いため、入荷増に加えて、消費者の食の変化もあり、安値取り引きとなっています。しかし、果実にあっては、一部の品目では、品質、食味良く、入荷減、単価高で推移しています。昨今、経済観測は景気回復の兆しがあるような話がありますが、個人消費は依然として乏しい。青果物は、今後の正月行事や新年会などに向けて、産地情報を取り入れて安定供給を図りたい。	葉物野菜安値取引 果実単価高 個人消費低迷	食料・飲料卸売業
サービス	材料の仕入原価上昇が激しくなっています。宴会の予約で仮予約が大変多く見られ、確保作業が多くなりました。	仕入単価上昇	酒場・ビヤホール
	新店舗が出店したので、採算好転を見込む。パート・アルバイトの時給値上げを進行中。	新店舗の出店 採算好転への期待 時給値上げ	食堂・レストラン
	全般的に大手の値上げが一服したためか、中小の業者が1月、4月と値上げ申請あり(衣料、文具関係)。秋の値上がり前に仕込んだ商品で、倉庫が満杯と資金繰りが厳しい。一部商品を値上げしたいが、お客様がネット価格と比較してくるので、据え置き販売の状況が続く。	仕入単価上昇(値上げ申請)	その他の飲食料品小売業
	個人需要では、国内旅行は冬場も相変わらず北陸方面と温暖な沖縄が人気。海外旅行は、フランスのテロの影響で、キャンセルまたは西欧から中欧、アメリカ、アジアコースへの変更が多い。法人需要では、旅行需要のみならず、従業員の福利厚生や社員研修の相談案件が増えている。また、次年度上期の旅行案件が増えている。その他、インバウンド案件も増えており、地域や時期により、バス手配が困難。	北陸・沖縄旅行人気(国内旅行) フランスのテロ影響(海外旅行) 従業員の福利厚生、社員研修案件(法人需要) インバウンド案件増加 バス手配に苦慮	旅行業
	仕入価額は、相変わらず上昇しています。建築費、材料費ともに値上がりしています。売上、契約数ともに減少しています。	仕入単価上昇 建築費、材料費上昇 売上・契約件数減少	不動産管理業
	事業用においては、良質な物件の空きは散見されない。住居系は郊外のワンルームの空き室率は高いと聞く。物件賃料は横ばいが続いている。	郊外の空き物件増加 賃料横ばい	不動産賃貸・管理業
年度末に向けて受注が増えている。一方、新年度の見込みは半分程度。	受注増 先行き不透明	ソフトウェア業	

◎人手不足

人手不足が続いている。省エネ関連(照明のLED化)が進んでいる。

電気工事業

高齢化、低単価に加え、職人不足と、今後の施工方法さえ変更せざるを得ない状況となっている。

その他の職別工事業

◎天候不順

衣料品は婦人・紳士とも気温の上昇もあって、冬物商材のコートなど重衣料の苦戦継続。

百貨店

暖冬傾向が強く、重衣料が超低調。特に、コートやセーターなどの厚手品は全て不調。数年前までは、12月の売上は頭一つ良かったのだが、ここ数年は平月と全く変わらなくなってしまった。

婦人・子供服小売業

◎仕入単価上昇

全般的に大手の値上げが一服したためか、中小の業者が1月、4月と値上げ申請あり(衣料、文具関係)。

その他の飲食料品小売業

仕入価額は、相変わらず上昇しています。建築費、材料費ともに値上がりしています。

不動産管理業











平成27年12月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.7に対し、「CCI-LOBO」が▲17.2で柏の方がマイナス幅が11.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.7に対し、「CCI-LOBO」が▲12.1で柏の方がマイナス幅が6.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.5に対し、「CCI-LOBO」が▲16.8で柏の方がマイナス幅が15.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲26.2に対し、「CCI-LOBO」が▲31.5で柏の方がマイナス幅が5.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△8.7に対し、「CCI-LOBO」が△15.8で柏の方がプラス幅が7.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.2に対し、「CCI-LOBO」が▲10.4で柏の方がマイナス幅が5.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。











平成27年12月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 28.7	 ▲ 12.5	 ▲ 41.1	 ▲ 44.0	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 17.2	 ▲ 15.4	 ▲ 15.5	 ▲ 30.8	 ▲ 7.7


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.7	 ▲ 8.3	 ▲ 35.2	 ▲ 40.0	 △ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 11.8	 ▲ 10.6	 ▲ 27.4	 ▲ 1.8


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.5	 ▲ 20.8	 ▲ 41.1	 ▲ 44.0	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 16.8	 ▲ 15.3	 ▲ 16.0	 ▲ 26.3	 ▲ 12.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.2	 ▲ 16.6	 △ 5.8	 ▲ 52.0	 ▲ 35.7
CCI-LOBO	 ▲ 31.5	 ▲ 33.6	 ▲ 23.4	 ▲ 37.6	 ▲ 33.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 8.7	 △ 8.3	 ±0.0	 △ 12.0	 △ 14.2
CCI-LOBO	 △ 15.8	 △ 17.2	 △ 8.5	 △ 18.0	 △ 24.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.2	 ±0.0	 ▲ 29.4	 ▲ 32.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.4	 ▲ 6.8	 ▲ 9.0	 ▲ 17.5	 ▲ 11.0

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成27年12月11日～17日

調査対象：全国の422商工会議所が2966企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、横ばい圏内の動き。先行きも懸念材料払拭できず、足踏み続く

12月の全産業合計の業況DIは、▲17.2と、前月から+0.9ポイントのほぼ横ばい。堅調な観光需要や住宅投資の持ち直しのほか、北米向け輸出・新車効果に下支えされた自動車を中心に、関連業種で業績改善が進む。他方、最低賃金の引き上げや人手不足を背景とする人件費の上昇、価格転嫁の遅れなどに加え、中国経済減速や暖冬の影響による受注・売上の減少を指摘する声も聞かれており、中小企業の景況感は、改善に向けた動きが鈍く、足踏み状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲18.2（今月比▲1.0ポイント）と、ほぼ横ばいを見込む。観光需要の牽引や住宅投資の持ち直しに加え、冬の賞与増を含む所得環境の好転による消費拡大への期待がみられるものの、人手不足や人件費の上昇、価格転嫁の遅れが足かせとなる状況に変わりはない。また、新興国経済の動向や消費者心理の二極化などへの懸念が企業のマインド

を鈍らせていることから、中小企業においては、先行きに慎重な姿勢を崩しておらず、足踏みが続く見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「鉄筋工や型枠工、重機オペレーターなどの不足が続いており、人材確保のため、賃上げを含めた待遇改善を進めたい」（一般工事業）、「鋼材など一部の建材価格が下落し、採算面で好影響がみられる」（建築工事業）、「大企業を中心にデータ通信設備への投資が増えているため、受注に繋がられるよう対応策を検討中」（電気工事業）

【製造業】「住宅投資の持ち直しに伴い、住宅メーカーからオーダーメイド家具の受注が伸びている」（家具製造業）、「建設機械関連をはじめ新興国向けの引き合いが鈍く、休業日を設けるなど、生産調整を行わざるを得ない」（産業用機械部品等製造業）、「取引先である造船会社の業績が好調。自社も受注が伸びているが、現在の生産能力では対応しきれず、納期遅れが懸念される」（金属部

品等製造業

【卸売業】「冬物衣料の受注増を見込んでいたが、暖冬が続いたため、小売店の販売不振が相次ぎ、在庫が積み上がっている」（衣料品卸売業）、「業績が伸びており、一段の営業強化のため、新卒採用を行ったが、内定辞退が発生。当面は採用活動を続けるが、人材を確保できるか不安」（食料品卸売業）、「電力会社や化学メーカーをはじめ、プラント関連の受注が堅調なことから、賃上げを実施した」（産業用資材卸売業）

【小売業】「お歳暮やクリスマスにあわせたイベントが奏功し、客足が伸びた。また、初売りに向けて高価格帯の福袋を企画しており、売上増に期待したい」（百貨店）、「人手不足であるが、収益改善の遅れからアルバイトの時給を引き上げる余裕がなく、採用募集をしても集まらない」（総合スーパー）、「12月に入っても気温の高い日が続き、冬物衣料や保温グッズなどの動きが鈍く、苦戦している」（商店街）

【サービス業】「原油安の恩恵はあるものの、荷主から軽油価格下落分の値下げ要請が

強まりつつあり、対応に苦慮している」（運送業）、「週末を中心に忘年会や新年会の予約が伸び、売上は前年度並みを確保」（飲食店）、「宿泊利用が堅調。更なる集客を図るため、スマートフォンにも対応した予約システムなどを導入したい」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲20.0	▲23.1	▲17.9	▲23.7	▲24.4	▲13.9
8月	▲14.9	▲19.1	▲13.0	▲15.5	▲23.0	▲6.5
9月	▲17.3	▲17.3	▲16.1	▲24.0	▲24.8	▲8.7
10月	▲17.5	▲17.1	▲17.4	▲21.8	▲23.1	▲10.7
11月	▲18.1	▲20.4	▲17.6	▲17.4	▲26.3	▲10.0
12月	▲17.2	▲15.4	▲15.5	▲17.2	▲30.8	▲7.7
見通し	▲18.2	▲13.8	▲16.3	▲23.7	▲27.4	▲12.2